

# 月刊 やちまなこ

2024. 4.15 発行

No.317

## 4月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



### 雌阿寒岳（1499m）阿寒富士（1476m）

雌阿寒岳は、ポンマチネシリや阿寒富士など8つ（10とも）の小さな火山から構成される成層火山群で、約13000年前から3000～4000年の間隙をもって火砕流が三時期にわたって噴出したという。

眼下に見える釧路湿原は当時まだ海であり、縄文時代であった。縄文時代の人々は間違いなくこの山々の火山活動を目撃していたはずである。

現代となり、阿寒摩周と釧路湿原の二つの国立公園を眺められる場所には、誰一人いないのが寂しい限り。



## 塘路フィールドノート【3/15~4/14】

### 【野鳥】

4月上旬まで塘路湖の湖面は氷が残り、水面では水鳥、氷上でオオワシ・オジロワシの姿が見られました。飛来し始めた夏鳥や留鳥も活発になり、早春の塘路湖周辺では多様な野鳥を観察することができます。



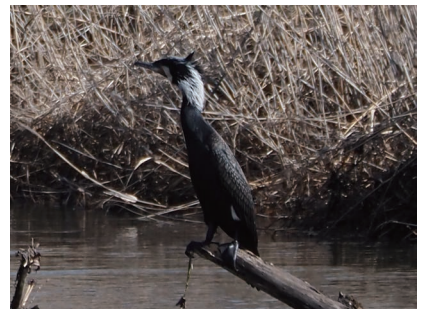
オオワシ (塘路湖)

繁殖地の北方へ長旅の前に氷の湖上で羽休め。春先はこの光景がよく見られます。



オジロワシ (塘路湖)

これまた氷が残る湖面上に飛来してきた成鳥。この近くで営巣している留鳥でしょうか？



カワウ (茅沼)

頭部や足の付け根が白くなる婚姻色の個体。周辺の水辺でここ数年よく見られます。



ヒシクイ (シラルトロ湖)

湖南岸の氷が残る場所に大群がひしめきあっていました。繁殖地へ渡る前の大休憩。



ヨシガモ (塘路湖)

湖上にいたオス(下)とメス(上)。春先は特徴的な婚姻色で違いが分かりやすい。



イカルチドリ (シラルトロ湖)

遠くの氷の縁にいた1羽。詳しい分布は分かっていない夏鳥です(一部越冬)。





コガモ (茅沼)

顔と肩羽に線があるのが特徴。冬鳥ですが一部繁殖。淡水型カモ類では国内最小です。



クマゲラ (茅沼)

キョーンという大きな響きで鳴いているメス。キツキ類では日本最大の天然記念物。



キバシリ (塘路湖畔)

センター近くの樹木を登って次の樹木へ飛んでまた登るを繰り返してました。



アカゲラ (茅沼)

繁殖期が近づいて行動も活発化しています。赤い帽子がないこの個体はメス。



ヤマゲラ (塘路湖畔)

主食はアリですが、木の実など植物も食すこともあります。湖畔では高確率で目にします。



コゲラ (茅沼)

人間に気付いてないのか無視しているのか、近くの樹木に向こうから来ます。

## 【植物】

気温上昇と日差しのおかげで、湖畔の大地に植物たちが続々と芽吹き始めました。戻ってきた緑の色彩を見ると、春の到来を実感します。これから一気に生長していくでしょう。



キタミフクジュソウ (北見福寿草)

広範囲で開花しています。縁起の良い花ですが根は強い毒性があり過去に死亡事例も。



ハンノキ (榛の木)

湿地帯で真っ先に咲く花の一つ。地味ですが、至るところでたくさん見られます。



ミズバショウ (水芭蕉)

ヤチボウズ近くでようやく芽を出しました。熊は根茎を食して体内洗浄(毒出し)します。



コバノカキドオシ (小葉垣通)

別名セイヨウカキドオシ。ヨーロッパではハーブとして用いられる帰化植物。シソ科



フッキソウ (富貴草)

花期は4~5月で果実はほんのり甘いツゲ科の常緑小低木。



コハコベ (小繁縷)

明治以後の帰化植物とする説や江戸時代に既に見られたという説もあり。食用。

## ◎塘路湖の水が消えるまで

一面の水に覆われていた塘路湖では解氷の進行が遅く、3月下旬になってようやく湖岸から水面が目立ち始めました。3/29にまとまった雨も降ったことで解氷のペースが上がると思いきや、4月に入ってもまだ湖の半分は水に覆われていました。4月も一週間を過ぎてようやく氷は姿を消しました。



3月26日  
春らしい陽気で、徐々に湖岸から解氷が始まる



3月30日  
沖合へ向かって少しずつ開水面大きくなる



4月5日  
センター周辺は解氷が進むが沖には氷が残る



4月12日  
センターから見える範囲では、氷は確認できない

## 5月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です

### 早朝バードウォッチング

[日 時] 5月19日(日) 8時～10時

[定員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで  
(0154-65-2323)

### ～新緑の森林ウォーク～

[日 時] 5月25日(土) 10時～12時

[定員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 二本松～シラルトロ湖 (集合は二本松駐車場)

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

## 企画展 ニタイ・トの新しい資料たち

6周年を迎えた標茶町博物館「ニタイ・ト」に寄贈された多くの新資料を展示します。

展示期間 4月27日(土)～5月5日(日)

場所 塘路湖エコミュージアムセンターレクチャールーム

観覧無料 お気軽にお越しください

◆日出・日入時間 3/15(5:33,17:28). 3/31(5:04,17:46). 4/14(4:40,18:03)

～指導員の独り言～

■道東地域で名誉市民(町民)となった我が青森県出身者がいる。開拓時代の釧路地方で馬の品種改良により「馬の神様」と呼ばれた神八三郎(1866～1955)は釧路名誉町民第一号である。

独学で考古学を学び、網走市のモヨロ貝塚を発掘して「オホーツク人」を世に知らしめた米村喜男衛(1892～1981)も網走名誉市民となっている。さらに、現釧路市長は県人二世? 困った。立派な県民がいるとは想定外だ。県民は破滅型人間として人生を終えると決まっているじゃないか。もうおしまいだ。ダメ人間の王国を作るのは諦めよう。(M)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004

E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間: 10:00～17:00

(11～3月: 16:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料